令和　８年１１月２４日

釜石市議会議長
　千葉　榮　　様

公明党　　山崎　長栄

会派視察調査報告書

当会派所属議員による視察調査を下記の通り実施しましたので報告致します。

１．視察項目：図書館事業について
日　時　：令和８年１０月２８日（水）９：３０～１１：００
参加者　：公明党　　山崎長栄　　細田孝子
相手方　：福岡県筑後市
議会事務局長　　小林　志保
教育委員会社会教育課係長　　橋本　精一郎
筑後市立図書館館長　　一ノ瀬　留美
場　所　：筑後市役所　会議室

筑後市は、筑後平野の中央部に位置し、豊かな自然と高い交通利便性を兼ね備えた田園都市。九州新幹線や鹿児島本線、高速道路インターチェンジへのアクセスに優れており、特にも九州新幹線と鹿児島本線の２路線の駅が、筑後広域公園内にあるという特徴を持つ。また、鎌倉時代創建の「水田天満宮」や、縁結びの神社として知られる「恋木神社」、福岡ソフトバンクホークスのファーム本拠地など、交流人口が期待できる魅力的なまちである。

人口は、４８，７５５人、世帯数２１，５０８世帯、面積４１．７８㎢。

研修内容　：

（１）県内最小の市立図書館設置の経緯について

１９８１年、勤労婦人センター（サンコア）の中に中央公民館図書室を移転し、図書サービスを提供して来る。その後、図書行政の充実策を調査・研究を続けてきた「筑後市図書行政推進委員会」が、２００６年、市長に対し７項目の提言を行った。

提言内容は、次の通りである。

① 図書室運営体制の強化について
図書室運営能力に優れた室長及び司書の配置等

② 図書資料の収集と充実について
図書資料の新鮮度・図書購入費の確保等→資料費１千万円確保し充実

③ 市民と図書室を結びつける対策について
　配本サービス・図書館システムの構築等
④ 図書室の施設の改善について
　出入口・閲覧席の改善や子どものスペースの確保→Ｈ２３年図書館化時
⑤ 図書室利用者の拡大
　ボランティアと連携・利用の積極的ＰＲ・開館日や開館時間の拡大等
⑥ 運営体制の改善について
　民間能力を活用した図書館運営の研究等→Ｈ２３年直営に決定
⑦ 調査研究の課題について
　学校図書館との連携や検索システムの構築等

以上の提言を踏まえ、２００６年に図書室長を配置し、２０１１年には、県内最小の市立図書館として運営が始まった。　＊→(矢印)以降は、改善されたこと

（２）筑後市立図書館のコンセプト

基本コンセプトは「生活（くらし）とともにある図書館」としている。
公共図書館の位置づけは、社会教育施設であると同時に、社会共育施設でもある。共に成長する施設と考え、そのために、広く市民のニーズに応え、赤ちゃんから高齢者まで、公平なサービスの展開に努めている。また、市民に寄り添った本の貸し出し推進等に留まらず、図書館を活用しながら、地域課題解決のきっかけづくりになり得る取り組みを積極的に行っている。

（３）図書館を拠点とする特色ある取り組みについて

［地域の課題解決きっかけ事業］

ストレッチ・健康チェック・糖尿病講座・高血圧講座・気軽に体力＆フレイルチェック・認知かふぇ・本 de 恋活等を行っている。特に印象に残った取り組みは以下の２事業である。

認知症かふぇ

・地域包括支援センターと連携し開催されている。図書館での開催は敷居が低く、当事者だけでは無く、認知症を心配する方や、本事業で情報を知り得て、医療機関に繋ぐ方など、多くの市民が参加し好評を得ている。１回当たりの参加者は平均１０名程度である。

本 de 恋活

・図書館主催で、年１回から２回程度、本が好きな人同士の恋活イベントを開催。２０歳から４０歳の男女、２０名程度を募集し、夜の図書館で好きな本の紹介をし合い、ゲームを楽しみながら、１対１のトークタイムを行い、出会いの場を創出している。今年の１２月で１４回目を開催、これまで３組が成婚に至り、希望されるカップルには、図書館を結婚式の前撮り会場として提供されている。

（４）雑誌スポンサー制度の取り組みについて

［図書館が行う地域貢献］

図書館の雑誌数を増やし、コーナーの充実を目的にし、２０１４年４月から雑誌スポンサー制度を導入。同制度は、市内の企業や商店、団体が雑誌の年間購入代金を負担し、図書館に寄贈されている。図書館作成の雑誌カバー裏面や書架に、雑誌名とスポンサー名を掲示する取り組みとなっている。

（２０２６年３月末現在　１２７誌中４６誌がスポンサー登録）

所　　感

○　２０年前の図書館に対する市民の印象は、古い・汚い・本がそろっていないとの批判や不満が多かった。そこで市は、図書館に来ない方や関心の無い方々に、如何に図書館を知ってもらうかを課題と受け止め、其の解消に向け、取り組みを始められている。業務は、１２名の職員（内、６名が司書資格あり）で行い、市民の要望に応えられる図書館、また、変化するニーズに対応出来るサービスを心掛け、日々成長する図書館で無ければならないとの思いで、取り組んでいるとの説明があった。また、図書館を活用し事業を行うことで、行政や市民にとって、必要とされる図書館を目指している。その結果、図書の利用者数の増加にも、成果が出ているとのことである。この視察研修を通じ、雑誌スポンサー制度を始め、図書館事業と其の運営の在り方等について、学ぶべきことが多くあった。



雑誌スポンサー登録



筑後市議場にて


筑後市立図書館にて

２．視察項目：防災情報収集システム構築とリアルタイム情報配信事業について

日　時　：令和８年１０月２８日（水）１３：３０～１５：００

参加者　：公明党　　山崎長栄　　細田孝子

相手方　：福岡県大牟田市

議会事務局次長	内山　勝司
防災危機管理室副室長	板谷　智隆
防災危機管理室副主査	堤　裕介
議会事務局	松岡　伸子

場　所　：大牟田市役所　会議室

大牟田市は、福岡県の最南端に位置し、南部と東部が熊本県に接している。西部は、有明海に面しており、干拓地や埋立地が広がり、東部は、三池山・上徳山・大間山など、小高い山が連なっている。また、北部には稲荷山・甘木山、更に南東部には、高取山と、丘陵地が点在するまちである。かつては、三井三池炭鉱の石炭資源を背景に石炭化学工業で栄え、最大人口２０万８，８８７人にも及んだ。２０１５年７月には、「三池炭鉱宮原坑・専用鉄道敷跡・三池港」が、明治日本の産業革命遺産として世界遺産登録されている。

人口は、１００，３０８人、世帯数４７，７２０世帯、面積８１．４５㎢。

研 修 内 容　：

（１）防災情報集約システム導入の経緯について

令和２年７月６日、梅雨前線の影響で、１時間に約１００ミリ近い猛烈な雨が３時間降り続き、２４時間雨量では、４４８ミリの降雨となった。被害の特徴としては、内水氾濫により市域の２６％が浸水、有明海の潮位の影響や、排水ポンプ場が停止する等、市内に大きな被害を及ぼした。そこで、初動対応の課題をまとめ、その解決策として、防災情報集約システム導入に至っている。

初動対応の課題

① 情報収集を市民の通報に頼っていたため、被害の全貌がつかめなかった。
② 通報が消防と警察に集中し、処理が追いつかなかった。
③ 避難所状況を把握するのに時間を要した。
④ 各部が把握した情報を集約できなかった。
⑤ 災害対策本部会議に於いて、防災担当者が持つ危機感を、本部員と状況認識の共有が出来なかった。

問題の解決策（防災情報集約システム導入）

① 市役所内に防災専用ネットワーク回線を構築し、各部にＰＣ端末を配備。
② 指定避難所、指定緊急避難場所へタブレット端末を配備。
③ 被害現場で活動する防災士や職員、消防団から、ＬＩＮＥを使って画像等の情報収集。

④ 気象庁・国交省・福岡県等の情報を集約。
⑤ 監視カメラ３９機、水位計１８機等、システムで集約した情報を、大型モニター１７台を使ってリアルタイムで本部より監視。

（２）整備費用等について
・整備費　　９千２２６万５４３４円
　財源　　緊急防災減災事業債（但し、防災行政無線再整備に併せての事業）
・維持費　　保守委託料　年間５６７万７０００円
　　通信費　　年間３３６万６０００円
＊ 別途、３～５年に１回バッテリー交換、
１０年に１回ＰＣとタブレット更新

（３）災害時の体制強化について
①市民からの通報を受ける体制として、災害専用コールセンターを設置。
各部署より動員を掛け、オペレーター１０人を配置（平時に研修を実施）。
➡ 技術的助言や被害情報の対応を行う土木職員を４人配置。
➡ センター全体の統括者（防災）を１人配置。
② 災害対策本部オペレーションルーム（第１会議室）を設置。
壁際に大型モニターを３台設置し、画像や数値で把握している。この部屋には、本部長である市長を始め、消防や警察、国・県・自衛隊など、応援機関も席を設け、その他、統括部総括班（防災危機管理室）、広報班、報道班、調整班、被害情報集約・分析担当、総括班、教育総務班（避難所対応）、要配慮者支援班、物資調達・輸送班が集まり、情報を共有し、統括部指示のもと対応にあたる。
平時の防災業務は、危機管理室９名の職員で行っているが、災害対策本部設置時には、危機管理室の兼務辞令が出されている職員（副課長１５名）が、防災対応業務に当たり人的強化を図っている。
③ 市が収集した情報をリアルタイムに公開。
倒木や冠水等による通行止め、河川の水位と決壊状況、避難所の開設と避難者数の状況など、市が把握した情報を、防災無線だけでは無く、ＬＩＮＥ・フェイスブック・メールなどで発信。画像や数値で発信することで、市民等に対し、正確な情報提供をいち早く伝えることが出来るとしている。

（４）市職員の災害対応力強化について
毎年、一部の職員で災害のシナリオを作成し、災害対策設置訓練（ブラインド訓練）を行い、市職員の対応力の強化を図っている。

（５）防災リアルタイム情報の評価と課題について

【評価】・市民やマスコミから「リアルタイムの状況を画像で確認できるので、わかりやすい」と言った高評価を頂いている。

【課題】・デマ情報の対策として現在は、画像の送信元を、防災士や市職員、消防団に限定している。

・個人情報（車のナンバーや顔など）の映り込みなど、画像のチェックの人手と時間を要する。

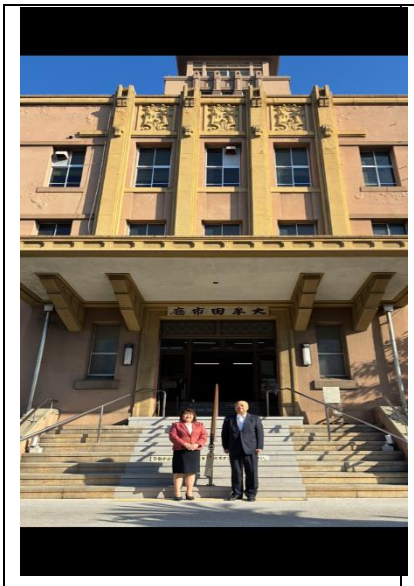
（６）防災リアルタイム情報について

防災専用ＨＰ「防災リアルタイム情報」を開設し、地図上をタッチすることで詳細な情報を得ることが出来る。（早く正確な情報）

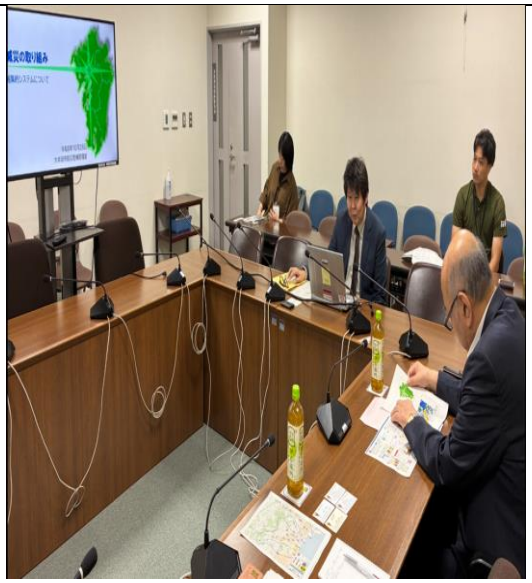
① 避難情報の発令状況
② 避難所開設状況
③ 市内の状況（雨量計・水位計・監視カメラ・通行止め・被害現場等）
④ 情報表示（電子版ハザードマップ）

所　　感

○ 大牟田市では、過去の災害に於いて、犠牲者を出してしまった豪雨災害の教訓から、新たな情報収集の在り方や、市民に対し、最新で正確な情報提供の在り方を検討されて来ている。其れは、防災情報収集システムの構築と、リアルタイム情報配信事業である。整備費や維持管理費に少なからず財源は必要となるものの、市民の生命財産を守る施策としては極めて重要であり、市民の理解は得られている。東日本大震災を経験した当市に於いても、新たな災害の発災を想定した場合に於いて、ハードな対策も重要だが、住民の生命を守るための施策や、訓練の在り方について再考すべき課題があるのではないか。



大牟田市役所前にて



研修の様子



国登録有形文化財である大牟田市役所本庁舎旧館

３．視察項目：長崎市原爆資料館等の施設見学
日　時　：令和８年１０月２９日（木）１２：３０～１６：００
参加者　：公明党　　山崎長栄　　細田孝子
視察先　：長崎原爆資料館　平和公園

長崎市は、１５７１年の開港以来、南蛮貿易やキリスト教布教の拠点として栄えたまちであり、禁教・鎖国政策のもとでは、海外の文物や学問が入る日本では唯一の窓口である。また、開国後は、長崎製鉄所や三菱長崎造船所などを核とした造船・重工業都市として発展し、海軍工廠や兵器・造船関連施設が集まる重要な軍需拠点でもあった。米軍が、原爆投下目標を選定する条件として①軍事・軍需施設が存在すること②従来の空襲で破壊されていないことの２点を挙げ、投下する第１目標を「小倉市」としていたが、視界不良のため、第２目標の「長崎市」に変更された経緯がある。
長崎に投下された原爆は、広島に投下された「ウラン型原子爆弾（リトルボーイ）」とは異なる「爆縮式プルトニウム２３９原爆（ファットマン）」が使用され、新兵器の威力や実践効果を検証する意図が背景にあったとの指摘もなされている。１９４５年８月９日、午前１１時２分、長崎の上空で一発の原子爆弾が炸裂し、まちの殆どが破壊され、多くの命が奪われる。８１年後の今尚、多くの被爆者が、放射線による後障がいやトラウマに苦しんでいる。

研 修 内 容　：
○ 第二次世界大戦終戦から８０年を経過、広島市に次いで原子力爆弾を投下された長崎市を伺い、悲惨な史実を残す長崎原爆資料館と平和公園を見学し、原爆の脅威と平和の伝承について学ぶ。

長崎原爆資料館に入ると直ぐに、投下された午前１１時２分で止まったままの柱時計が展示されていた。被爆前後のまち並みや当時の市民生活、米軍機が撮影した原爆投下瞬間のキノコ雲の映像等も紹介されている。その後、被爆した浦上天主堂の側壁を再現した展示、原爆の爆風や熱風による被害を伝える実物資料、放射線による人体への影響、被爆者の手記や絵画、長崎型原爆（ファットマン）の実物大模型の展示もなされていた。また、核兵器開発の歴史や戦後の国際情勢等、年表等を使い解りやすい説明もあり、更には、被爆地である長崎・広島からの平和発信の歩みが紹介されている。この他、被爆者の体験談や、原爆記録映画を視聴することも出来た。

平和公園では、平和を象徴する高さ約１０メートルのブロンズ像（天を指す右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を、軽く閉じた目は原爆犠牲者の冥福を祈る姿を表現）を始め、平和の泉（水を求めながら亡くなった犠牲者に捧げられた噴水）、平和のモニュメント、折り鶴の塔（全国・世界から寄せられた千羽鶴）があり、静かで厳粛な雰囲気の中で平和への祈りと思いを深められた。

所　　感

○ 昨年は、第二次世界大戦終戦から８０年を迎えたことから、世界で初めて原子力爆弾が投下された広島市を訪ね、平和の伝承について学ばせて頂き、この度は、長崎市を伺い、更に、戦争の悲惨さと原爆の脅威、平和の大切さを学ばせて頂いた。特に印象に残ったことは、広島市の平和祈念資料館の展示には見え無かった、爆死された方々の写真等が展示されていたことである。それは、極めて衝撃的であり、社会見学に来ていた小学生が力無く漏らした「今晩眠れないかも知れない」との一言は、彼らだけでは無く、見学に訪れた全ての方々の心境では無かったか。

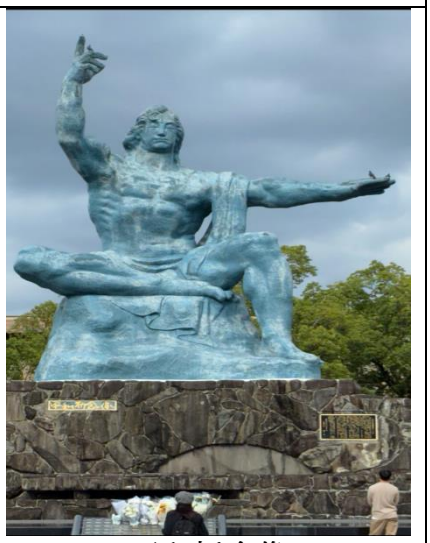
改めて、人が人を殺傷し殺戮し合うと言う、戦争が及ぼす現実を後世に正確に伝えることや、核兵器の脅威について、更に、世界中の人々に訴えて行く必然性を改めて感じる視察となった。

<table>
<tr>
<td>

長崎原爆資料館①</td>
<td>

左記②</td>
<td>

爆心地公園に設置された母子像</td>
</tr>
<tr>
<td>

平和公園入口</td>
<td>
平和の泉</td>
<td>
平和祈念像</td>
</tr>
</table>

報告者　細田孝子・山崎長栄